

平成28年度 天子田デイサービスセンター事業報告

【施設種別】 介護保険法による指定通所介護施設 【1日利用定員】 25名

平成28年度4月より個別機能訓練加算Ⅰと運動器機能向上加算の算定を開始したが、職員の配置の継続が難しく、10月で上記加算は打ち切らざるを得なくなった。11月からは平成27年度に実施していた「加算なしの個別リハビリ」を再開した。そのような経過を経て、職員の安定した配置継続の難しさと、その業務を行う為に必要な時間と労力の把握を経験することができ、また加算を算定することで、職員のスキルアップを図る事にも繋がった。以上の事を踏まえ、加算は取れなくとも、利用者・家族・ケアマネのニーズに応えつつ、今可能なサービスをより安定させることで稼働率を上げ、経営安定を図っていくことの見極めが行なえた。

1 基本方針

当施設にあっては、創設者の「愛するものは愛される」の経営理念に基づき、長年のデイサービスセンター経営の経験と、そのノウハウの蓄積を活かし「尊厳と生きがいのある生活」「利用者本位の自立支援」を基本として、利用者の要介護状態の軽減若しくは悪化の防止、又は、要介護状態となることの予防を資するものである。

2 介護度の改善・維持の取り組み

介護保険のサービスの基本は、「利用者本位」のサービスであり、「自立支援」にある。そのためにケアマネとの連携を図り、ご利用者の課題の把握に努め、通所介護計画に基づいた個別プログラム（歩行・立ち上がり・発声・書字など）により利用者の介護度の改善と維持に取り組んだ。その中でも28年度上半期には、要支援の方対象の運動器機能向上と、要介護者対象の個別機能訓練Ⅰの加算算定を行った。

3 介護予防通所（予防専門型通所）事業への取り組み

平成18年度より、「介護予防通所事業」が実施された。当デイサービスにおいても、「要支援」利用者の要望も強く、「介護予防」の事業施設として参入した経緯もあり、アクティビティを中心に事業の実施を行ってきた。平成28年6月からは総合事業が開始となり、要支援の方は更新月に、今までの介護予防通所サービスから予防専門型通所サービスに移行となった。その中で前期は運動器機能向上加算の取り組みを行った。

4 第三者評価事業及び情報開示事業の実施

施設経営には、基本的理念、経営方針はもとより、利用者の権利擁護、人権の尊重といった根源的な理念を踏まえた、民主的で健全な事業経営が求められており、第三者評価事業として名古屋市在宅介護サービス事業連絡研究会に、情報開示事業として愛知県介護情報公表センターへ調査を委託し、利用者、家族に「安心」と「信頼」を得られる様、常にサービスチェックを行い、問題の洗い直しと改善目標を設定し、サービスの向上に努めた。

5 アクティビティ活動の促進

18表(一日のサービス実施内容)参照

季節に応じたイベント行事に加え、クラブ・サークル活動を毎日提供することで、利用者の主体性や満足度を高め、利用者獲得にもつながった。

6 事故防止対策の取り組み

特養・ショートと合同で行う事故防止対策委員会に参加する事や、ヒヤリハット報告を毎月の職員会議の議題で取り上げ検証を行い、周知・徹底を図る事が大きな事故を未然に防ぐ事に繋がるという認識を職員が持ち、事故防止に取り組んだ。また事故発生時においては、「事故・苦情マニュアル」に基づき迅速に対応するよう努めた。

7 相談・苦情

利用者・家族からの苦情は、施設に対して抱く期待や要望が裏切られたと感じた時に、不満となって跳ね返ってくる事が多く、苦情と期待・要望は表裏一体のものである。そのために利用者懇談会を設け、利用者の率直な意見に基づき、様々な改善に努めた。

また日頃から、何気なく交わされる会話の中から、ご利用者やご家族の悩み・不満を察知して、話をする機会を設けるなど、早めに問題解決を行った。ケアマネからの相談・苦情についても、円滑、迅速に対応した。

8 個人情報保護

当デイサービスセンターは、日常、利用者の情報及びプライバシーを多く扱っており、その性質上いったん誤った取り扱いをすると利用者に被害を及ぼすおそれがあり、全職員に「個人情報」の管理及び適切な使用など、内部研修を行う事で周知徹底に努めた。

9 職員リフレッシュ事業

近年、職場での心理的負荷（精神的ストレス）によるところの病気が問題となっている。職場内において事前に予防する等のメンタルヘルスへの取り組みが急務と思われる。この事業を通じて職員間の人間関係の構築と他職種との意思の疎通をはかり、心理的、精神的負荷を軽減し、より良い職場環境と健康（心身）を保持し、それにより、良質な介護サービスが提供できるように努めた。

今年度も、映画チケットの配布や、助成制度ありの観劇チケット入手機会を設ける等、他部署との会食以外にも、職員のリフレッシュを心掛けた。

10 設備・備品の改善

利用者の環境改善と職員が働きやすい環境整備をめざし、以下の改善を行った。

- ・洗濯機の買い替え
- ・排水口の水漏れの修理
- ・非常灯のバッテリー交換
- ・オーディオ機器の買い替え
- ・排水溝回りの高圧洗浄

11 職員の状況

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

	施設長 (人)	生活相談員 (人)	看護師 (人)	介護士 (人)	計 (人)
正規職員	1	2	0	1	2
臨時職員	0	0	0	2	2
非常勤職員	0	2	4	9	11
計	1	4	4	12	15
兼務	①	④	④	⑤	

12 職員の研修状況

4 月	・事故発生（緊急）時の対応に関する研修	内部研修
5 月	・誤嚥予防に関する研修	内部研修
6 月	・感染症及び食中毒の発生の予防及びまん延の防止に関する研修	内部研修
7 月	・プライバシー（個人情報）保護についての研修	内部研修
8 月	・非常災害時の対応に関する研修 ・上手な会議進行と魅せ方の習得 ・生活相談員研修 チームケアにおける生活相談員の役割	内部研修 外部研修 外部研修
9 月	・認知症ケア及び認知症ケアマニュアルの履修、検証	内部研修
10 月	・当該サービスに関する研修 接遇+利用者行方不明時の対応	内部研修
11 月	・倫理及び法令遵守に関する研修	内部研修
12 月	・感染防止対策に関する研修	内部研修
1 月	・ヒヤリハットの必要性の研修及び勉強会	内部研修
2 月	・当該サービスに関する見直し及び研修	内部研修
3 月	・レクリエーションの必要性と見直し	内部研修

13 区別登録者の状況

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

	守山区	千種区	名東区	尾張旭市	計
男性 (人)	14	0	1	0	15
女性 (人)	32	0	1	2	35
計 (人)	46	0	2	2	50

(障害者含まず)

14 利用者の要介護度の状況

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

登録現員	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	平均介護度
50 人	1 人	4 人	19 人	18 人	3 人	3 人	2 人	—
100%	2%	8%	38%	36%	6%	6%	4%	1.9
27 年度	8.3%	12.5%	29.2%	35.4%	6.3%	6.3%	2.1%	1.9

15 利用の状況

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

	実施 日数	登録者数			延利用者数				28年度	28年度	27年度	27年度
		総合 事業	介護 予防	通所 介護	総合 事業	介護 予防	通所 介護	利用者数合 計(障害者数)	平均利 用者数	稼働率	平均利 用者数	稼働率
4月	26	0	9	41	0	52	379	431(46)	18.34	73.36	18.34	73.36
5月	26	0	8	45	0	44	416	460(44)	19.38	77.53	19.26	77.00
6月	26	1	7	43	3	40	418	461(42)	19.34	77.34	17.84	71.38
7月	26	2	6	42	9	35	353	397(38)	16.76	67.07	18.44	73.76
8月	27	3	4	43	18	26	398	442(41)	17.88	71.55	18.80	75.23
9月	26	3	1	46	20	9	459	488(32)	20.00	80.00	18.61	74.44
10月	26	3	1	46	20	8	478	506(30)	20.62	82.46	18.59	74.37
11月	26	3	1	47	19	9	485	513(31)	20.92	83.69	18.68	74.72
12月	26	3	1	45	18	9	469	496(33)	20.35	81.40	19.44	77.76
1月	24	4	0	43	15	0	385	400(29)	17.87	71.50	18.20	72.83
2月	24	6	0	45	29	0	399	428(28)	19.00	76.00	18.16	72.64
3月	27	5	0	45	25	0	473	498(33)	19.62	78.51	18.00	72.00
計	310	33	38	531	176	232	5051	5520 (427)	—	—	—	—
平均	25.8	2.75	3.16	43.9	14.7	19.3	420.9	495.7 (35.6)	19.18	76.70	18.53	74.12

16 利用者の ADL の状況

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

ADL		男性 (人)	女性 (人)	計 (人)	割合 (%)
歩行	全 介 助	2	4	6	12
	一 部 介 助	3	5	8	16
	自 立	10	26	36	72
食事	全 介 助	1	1	2	4
	一 部 介 助	1	0	1	2
	自 立	13	34	47	94
入浴	全 介 助	1	2	3	6
	一 部 介 助	3	4	7	14
	自 立	11	29	40	80
着脱衣	全 介 助	2	1	3	6
	一 部 介 助	7	7	14	28
	自 立	6	27	33	66
排泄	全 介 助	1	5	6	12
	一 部 介 助	4	4	8	16
	自 立	10	26	36	72
認 知 症		6	16	22	44

(障害者含まず)

17 年齢別の状況

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

	男性 (人)	女性 (人)	計 (人)	割合 (%)
60 歳～64 歳	0	0	0	0
65 歳～69 歳	1	1	2	4
70 歳～74 歳	0	2	2	4
75 歳～79 歳	6	11	17	34
80 歳～84 歳	3	8	11	22
85 歳～89 歳	2	6	8	16
90 歳～94 歳	3	5	8	16
95 歳～99 歳	0	2	2	4
100 歳以上	0	0	0	0
計	15	35	50	100
平均年齢	82.3	82.5	82.4	—

(障害者含まず)

18 一日のサービス実施内容

身体機能の維持・向上を図り転倒予防に努める・脳の活性化を図り認知症の進行予防に努める・気分転換を図り精神的安定を図る等を目的として、複数のメニューから利用者自らが主体的に選択することを重点に置き取り組んだ。また、要支援・要介護共通メニューとして口腔機能・運動機能の維持向上や栄養改善に努めた。

	午前のメニュー	午後のメニュー	その他のメニュー
手指 認知 創作 精神安定	入浴 計算問題・国語問題 カレンダー作成 間違い探し・針仕事 折り紙・塗り絵・オセロ 将棋・パズル・編み物 習字・ちねり絵 トランプ ・写経	壁飾り作り・ちぎり絵 押し花工作・習字・水墨画 カラオケ・針仕事・回想法 オセロ・将棋・トランプ おやつ作り・折り紙 買い物体験 (リハビリ評価) 編み物・ハンドベル 各種工作・布草履作り	フェイシャルマッサージ 季節ごとの行事 メイク ボランティアの演芸 作品展見学
運動	健康チェック 集団体操	外出・体感ゲーム・輪投げ カローリング・ボーリング テーブルホッケー・散歩 ラジオ体操 季節ごとのゲーム	準備体操・整理体操 ※個別リハビリ 足上げ歩行・蟹歩行 上半身ストレッチ ウォーキングマシン ペダル漕ぎ・平行棒 ゴムバンド運動
口腔	口腔体操・歌	カラオケ・会話・談話	発声訓練・口腔ケア
栄養	水分摂取・体重測定	食事・おやつ	